量ともに高いもので、いかに武田氏が中世を通じて文化的腐心を行って来たかが良くわかるところである。この中で、特に禅宗は山梨県出身僧が、中央で活躍。その資料は今日、わずかに垣間みるにすぎなかったが、世に「妙沢不動」と言われ、大阪市美術館の重要美術品や、東京国立博物館など、わが国の古美術の殿堂ではいくつか所蔵が見られる龍湫周沢（＝妙沢）の「不動明王図」は、周沢の出身が甲斐武田氏であることを考えると、どこかにあるはずだといつも私の中で宿題のように考えていた画像であった。

一蓮寺調査の折、箱書にある「妙沢不動」の名は私の中で、禅宗と時宗の疑問をいだきながら、驚きを持って「真蹟であって欲しい」と、蓋を開けて、軸をひろげたことを思い出す。正に妙沢不動、甲州最初の画僧の出現を見たのである。

この「不動明王図」は江戸時代の奉納に関るものであったが、一蓮寺は武田氏、一条氏の開いた寺で、その由縁であったのであろう。龍湫周沢は天竜寺第十五世になった人で、京都の禅宗文化の中心にいた僧である。この時代の「不動明王図」の作者としては、先づ妙沢と第一に指を折る画僧が、出自の地に眠っていたことは、私にとって『甲府市史』を担当したという自負と喜びをこの画から与えられたのである。

さて『甲府市史』も完結となる。事務局として多くの御苦労を背負われた高木氏、数野氏をはじめとする編纂担当諸氏に深く感謝を申し上げたいと思う。私自身、満足でなかった多くのことが心残りのままであるが、今後に新たなる「甲府の美術」を肉付けしていこうと思う。

文化遺産にふれて

調査協力員　相原眞洋

甲府市制百周年記念事業として計画された市史編さんに調査協力員として参画する機会に恵まれ、金桜神社を始め宮本・能泉地区内の旧区有文書等古文書の調査、宮本・能泉・羽黒地区内の石造物調査を担当した。

金峰山を始め多くの山頂の石祠、集落毎に構築された道祖神、路傍の馬頭観音、観音霊場の供養塔、庚申塔、地蔵像、鳥居、石橋、石灯籠等種類と数の多さ、これらを保存して来た先人、地域の人々の情熱に深く頭を下げたい思いがする。

特に山中共古先生が「甲斐の落葉」に甲州で珍しき物と書いた金秋石の石灯籠、荒川ダム東側のダム建設に伴い移転された川窪町内全ての石造物には感激した。

しかし乍ら心ない一部の人に持ち去られたものもあるとか、市史資料を含めこれらの文化遺産を末永く保存することを望みたい。

（市史編さんを終えて）

調査協力員　落合四郎

市史編さん調査協力員を引き受けて早六年が過ぎようとしています。この間特別な御協力も出来ず汗顔の至りですが、この大事業に些か関わった者として感銘を深く致しました。磯貝先生を委員長に各専門委員の先生方や事務局の皆様方の一体となったチームワークに依り、膨大な史料の発掘収集や又その史料の年代別等仕訳の仕事